

重症集中ケア研究会たより

第9号：発行 2004年 10月

発行人：杉澤栄

編集：米山・大石・楠・山本



すっかり寒い季節となりました。今年は連日の台風の影響に加え、新潟中越地方の大震災と続き、まだ予断が許されない状況ではありますが、被災地の皆様には心からお見舞いを申し上げます。また、救助活動に参加されている方もいらっしゃると思います。今は、私達にできることは何かを考え、ただただ早い復興を祈るばかりでいます。

さて、今年の定例会は4回から1日単位と内容を充実させ、多くの方に参加していただきやすい形へ変え、関東・関西1回ずつの2回で企画しました。内容の方も、午前中を私達、重症集中ケア認定師の為の企画とし、午後をクリティカルケアに関心の高い全ての看護師を対象としました。今回は、9月に行なわれました第1回の定例会の報告をいたします。御一読下さい。

2004年度 第1回定例会レポート

日時：9月12日（10:00～17:00）



シンポジウムでのひとこま

場所：社団法人日本看護協会
看護教育・研究センター

参加者：午前の部・・・51名

午後の部・・・65名（うち非会員14名）

午前の部：重症集中ケア認定看護師を対象に『現場での疑問をどうやって研究につなげるの?』をテーマにし、東京医科歯科大学大学院教授井上智子先生より「クリティカルケアの実践から研究として目指す方向」についての講演いただきました。

その後で、3人の先生方（道又元裕先生、興良 登美代先生、木下 佳子さん）にアドバイザーをお願いして、「重症集中ケア領域での日頃の看護実践を看護研究につなげていくにはどのようなことが考えられるか」グループディスカッションを行いました。初対面の参加者も積極的に意見交換を行い、日頃の悩みや課題なども話題にあがり、時間が足りないくらい話に盛り上がった楽しいディスカッションとなったように思います。

午後の部：全ての看護師を対象に『急性期の栄養管理』をテーマにシンポジウムを行ないました。最初に基調講演として、神奈川県立こども医療センター 救急診療科 永渕弘之先生から、急性期の栄養管理の重要性として、「腸管バリアの役割と重要性」や「経腸栄養の早期開始と栄養法とその選択」「経腸栄養の問題点」、「実際の経腸栄養剤の特徴」など参考になるお話を聴くことができました。



その後5名のシンポジストより、日頃の看護実践の報告（急性期からの栄養管理と栄養にかかわる看護ケアやコンサルテーション事例、栄養の評価、嚥下の評価方法、NSTの活動の実際などの具体的な実践内容）がありました。ディスカッションでは、NSTの活動の利点や、経腸栄養中の看護では多くが下痢に悩まされることについても話し合われ、今後の看護活動に生かされる内容でした。参加者の皆さんといろいろな交流ができた定例会であり、自分自身多くの学びの場となりました。多くの皆様に参加で、大盛況で定例会を終了することができました。

———有り難うございました。———

詳しくは重症集中ケア研究会のHP内『定例会報告書』ご覧下さい。

第2回定例会は、11月13日 北野病院 5階きたのホールにて「研究のプロセスと実際」「重症患者の鎮静」をテーマに開催を予定しています。多くの方の参加をお待ちしています。



重症集中ケア研究会

Intensive care unit-certified expert nurse

重症集中ケア研究会公式ホームページに、是非アクセスしてみてください。
会員専用のページのほか、研究会会員以外の方にも参加していただけるよう重症集中ケア掲示板(BBS)のページも用意して、多くの方のアクセスをお待ちしています。

URL <http://www.icu-cen.com>

—————
<編集後期>

広報では、今後、より興味のもてる内容にしていきたいと考えています。

ご意見、ご感想、お問い合わせは、HPの広報宛にご連絡下さい。